



<プレスリリース カテゴリー：サービス導入事例発表>

2022年10月4日

報道関係者各位

アイビーシー株式会社

あすか製薬ホールディングス様のシステム運用 DX 事例

最適な切り分けでトラブル原因を即座に判別・解決 ～ 明確なデータにより社内システム改善をスムーズに実現 ～

アイビーシー株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：加藤 裕之、以下 IBC）は、あすか製薬ホールディングス株式会社様のシステム運用 DX 事例を公開しました。



あすか製薬ホールディングスは、「先端の創薬を通じて人々の健康と明日の社会に貢献する」との経営理念のもと、「予防、検査・診断、治療、予後」のヘルスケア市場全体に関連事業を展開するトータルヘルスケアカンパニー。あすか製薬株式会社、あすかアニマルヘルス株式会社、株式会社あすか製薬メディカルの3社を関連会社に持つ。



創立	1920年（大正9年）6月16日
設立	1929年（昭和4年）6月28日
従業員数	800名（2021年3月31日時点）
所在地	東京都港区芝浦二丁目5番1号
事業内容	医薬品、医薬部外品、食品および医療機器等の製造・販売ならびに輸出入

- 🚩 利用開始：2022年3月 System Answer G3、運用支援サービス
- 🚩 監視規模：300台、20,000項目
- 🚩 監視対象：本社、湘南研究所、いわき工場、全国に20拠点ある営業所、グループ会社のL2スイッチと無線LANアクセスポイント

【導入背景】

元はネットワーク監視ツールを使用しておらず、ユーザーからネットワークに関する問い合わせがあった際はシステムのログを確認したり、WAN 回線を提供するベンダーから随時トラフィックデータを提供してもらうことで原因調査をおこなっていた。無線 LAN アクセスポイントについては付属の管理ツールにログデータが収集されていたが、データの保存期間が 1 か月しかなく、ログ一覧からの絞り込みも 1 ホストずつしか指定できないため、同じ部屋に設置された複数台のアクセスポイントのデータを見比べることができなかった。このような状態を打開すべく、システムの性能情報を取得できる監視ツールを導入することとなった。

【採用理由】

まず OSS である他社製品 A を検討したが、海外製品であるため最新バージョンのマニュアルの日本語化やサポートの対応に時差があり、急を要するトラブルの即時対応ができなかった。

そこで国産製品である他社製品 B と System Answer G3（以下 G3）に選定対象を絞り、1 か月間の検証をおこなった。その際、両製品とも特定のメーカーの機器の監視設定ができないトラブルが発生し、両社に問い合わせをおこなった。他社製品 B は海外の問い合わせ対応ベンダーからの回答を国内の担当者が受け取ってからの対応となるため、1 通あたりの返信に数日を要し、1 か月の試験期間の間ではそのタイムラグが惜しいと感じた。一方 G3 は IBC の担当 SE と迅速に連絡が取れ、確認後すぐに回答があった。

結果的にトラブルの原因は該当機器のファームウェアの問題であることが判明し、他社製品 B でも G3 でも監視を開始することができたが、IBC の迅速な対応と回答によりトラブルを解消できたため製品導入後のサポートにも安心感があると感じ、G3 を運用支援とあわせて採用することとなった。また、あすか製薬では複数ベンダーの機器を使用しているため、G3 が 129 社ものベンダー MIB テンプレートを標準搭載していることも後押しとなった。

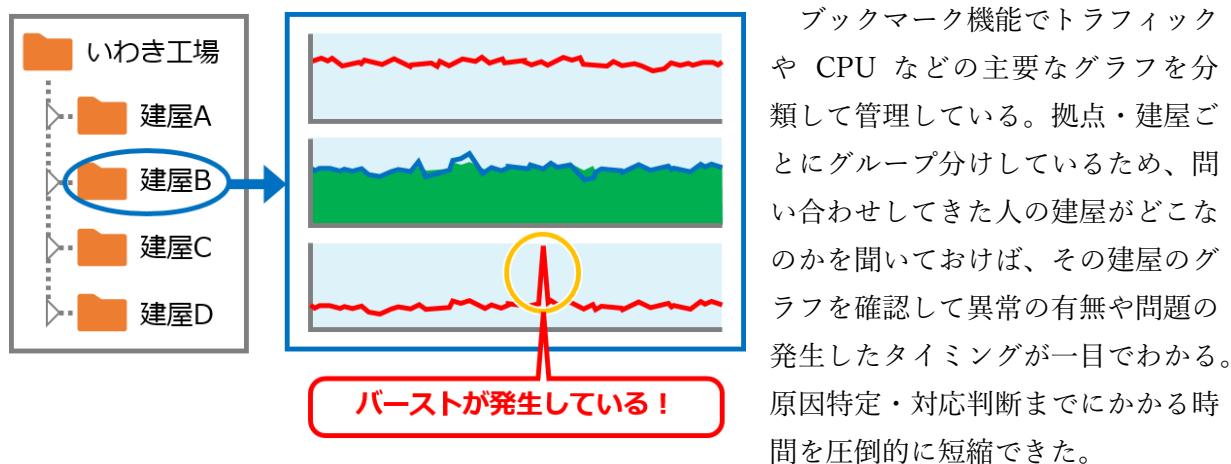
【効果・感想】

リモートワークや Web 会議の需要の増加にともない、Web 会議システムで使用する通信のみをファイアウォールを経由する一般的な通信と独立させてインターネット環境に直接出ていくようにしており、この Web 会議システム専用線の通信量が帯域を超えないか、定期的に G3 で確認している。そんな中、iPhone をいわき工場の Wi-Fi に接続するとクラウド PBX サービスに繋がらないという事象が発生したため調査したところ、クラウド PBX のアプリ通信も Web 会議システムと同じく直接インターネットに出せばうまく繋がることわかったが、Web 会議システムと同じ回線に乗せることに対して「大人数がクラウド PBX で電話を掛けた際に Web 会議システムの通信に問題がないか」「Web 会議が切れてしまわないか」といった不安の声が上がった。そこで過去数か月分の G3 のデータから Web 会議システムでの通信量や iPhone の通信量

の目安、いわき工場でのこれまでの通信傾向などを確認し、帯域がいっぱいになったり会議が途切れる心配はないという回答を即座に提示することができた。

また、運用支援で調査法や対応の妥当性について IBC の SE に相談することができることもとても心強い。

■ブックマーク機能による整理



■トラブルの原因切り分け

G3 を導入してまずはじめに取り掛かったのは、これまで頻発していた、いわき工場の通信不安定の原因調査だった。

長らくネットワークが原因だと考えられていたが、G3 でトラフィックデータを確認してみたところ大量のトラフィックが流れているわけでもなく、不具合は見受けられなかった。

そこでトラブルが発生している機器自体を確認したところ、セキュリティソフトの異常検出・検知の動作が PC の CPU を圧迫していたことが判明した。G3 のデータによりネットワーク側には問題がないことを明確に示すことができたため、スムーズに PC の交換対応に移ることができた。

【更なる高度化への取り組み】

今後、グループ会社間での連携や多種多様な働き方が予想される。社内の誰もがどこにいても安定したネットワークを安全に利用できるようにするため、全社のネットワークセキュリティレベルを向上させ、無線 LAN アクセスポイントが正常に稼働するように設定する必要がある。G3 で監視していた過去のネットワーク使用傾向をもとに、最適な環境設計をしていきたい。

<企業情報> 【アイビーシーについて】

IBC は、2002 年の設立以来、性能監視分野に特化した事業を展開しており、IT システムの稼働状況や障害発生の予兆などを把握する IT システム性能監視ツールの開発・販売およびコンサルティングを手掛けています。

社 名：アイビーシー株式会社

本 社：〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 8 番 8 号 アクロス新川ビル 8F

代 表 者：代表取締役社長 加藤 裕之

設 立：2002 年 10 月

事業内容：IT システム性能監視ツールの開発/販売/サポート

IT システムの性能評価サービス

IT システムの設計・構築、コンサルティング

IoT セキュリティ基盤サービスの開発/提供

各種機器、ソフト販売

<本件に関するお問い合わせ>

■アイビーシー株式会社

電話 : 03-5117-2780

E-mail : info@ibc21.co.jp